

# ニュースレター

## ——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 5. 1~15. 5. 31>

5月9日

■右脳と左脳とは機能に違いがあるが、左右差をもたらしているとみられるたんぱく質を、九州大学院の伊藤功・助教授らの研究チームがマウスを使った実験で発見。(読売)

5月11日

■電極を組み込んだ人工網膜を眼球に埋め込み、目の病気で失明した患者の視力を一部回復させることに、米南カリフォルニア大医学部のチームが成功。(読売)

5月13日

■血糖値を下げるホルモン、インスリンの分泌を促す薬を遺伝子組み換え技術で米に蓄積させることに、日本製紙などの研究グループが成功。(朝日)

5月15日

■様々な細胞に成長する能力を持つ胚性幹細胞(ES細胞)を使って、神経性の難病であるパーキンソン病を治療する動物実験に横浜市立大や自治医大などが共同で成功。(日経)

■札幌大泌尿器科などでつくる医療チームは、体の性と心の性が一致しない性同一性障害について、年内にも治療を開始する方針を明らかに。(道新)

5月23日

■精子を作れない無精子症の動物実験を進める

農業生物資源研究所(つくば市)と岡山大のグループは、Fkbp6という遺伝子が、精子形成に重要な役割を担っていることを、カナダと共同で究明。(毎日)

■記憶力をもとに軽度の痴ほう症の度合いを判定し、脳の機能回復訓練もできるシステムを、札幌大保健医療学部作業療学科の村上新治教授が開発し、近く臨床で活用を開始。(道新)

5月27日

■食物繊維を多く取る人ほど大腸がんになりにくいことが、世界保健機関(WHO)の下部組織「国際がん研究機関」の調査で明らかに。(読売)

5月28日

■パーキンソン病や筋ジストロフィーなどの治療に役立つと期待されるヒトの胚性幹細胞(ES細胞)作りに国内で初めて、京大再生医科学研究所の中辻憲夫所長らが成功。(朝日)

5月31日

■がん細胞に特有の遺伝子の組み合わせを読み取ってその情報を蓄積し、がん患者の患部の遺伝子と突き合わせることで、転移の可能性や患者の生存率を推測するデータベース構築に、北大医学部の加藤紘之教授(腫瘍外科学)の研究グループが成功。(道新)